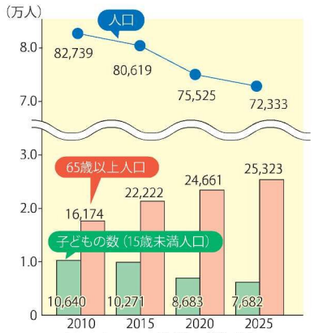
33. 福祉のまちづくり

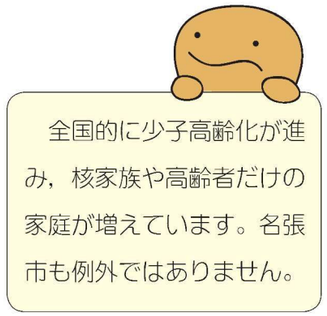
人はみんな，住み慣れたまちで，安心して，その人らしい暮らしを送ることを望んでいます。そして，もし介護が必要になっても，自宅で生活したいという希望を持っている人も多くいます。

しかし，地域で住み続けていると，自分や家族のことを自分だけで守ることが難しくなってきます。そんな時は，市や施設等が提供する福祉サービスとともに，地域の人の理解や支援が必要です。名張市では地域づくり組織や民生委員・児童委員，ボランティアなど，地域にかかわる人々のネットワークを通して地域の人を支える基盤ができていて，今後はこれらをさらに発展させようとしています。

その一つに「地域福祉教育総合支援システム」があります。これまで介護や子育てなど，家庭のさまざまな悩みを，どこに相談をしたらよいのかわからないことがありました。そこで，どの地域にもある「まちの保健室」に相談をすると，市の「地域包括（ほうかつ）支援センター」にいる専門の相談員を中心に関係機関が集まり，解決策を検討し，その家庭を地域全体で支えていくという体制を整えていきます。



市の人口の推移（推計）



1．健康づくり

だれもが，健康で日常生活を支障なく送れる期間（健康寿命）を少しでも伸ばしたいと願っています。そのためには，無理なく健康づくりを続ける事が大切です。

まちの保健室・地域の健康づくり

「まちの保健室」は，市内の 15 地域にある市民センター等にそれぞれ設置され，子どもから高齢者までの健康づくり・地域福祉活動を支援しています。身近な地域の中で，だれでも気軽に相談できる窓口として利用されています。

各地域でもそれぞれ工夫して「地域の健康づくり」に取り組んでいます。体操教室，ノルディックウォーキング，歩こう会，男の料理教室などが行われています。また，地域の「高齢者サロン」や「子育て広場」でも，まちの保健室の職員が健康づくりの支援をしています。

まちの保健室

ノルディックウォーキング

2．高齢者福祉

高齢者の買物・調理・掃除などの日常の家事支援，植木の手入れなどの作業支援や安否確認などは，公的なサービスとともに，地域の人によるボランティア活動が必要です。そのため，普段からの近所付き合いが，いざという時の手助けにつながります。

配食サービス

介護が必要な人の中で，認知症で日常生活に影響のある人はかなりの割合を占め，今後も増加傾向にあります。認知症になっても，本人の気持ちが尊重され，地域で安心して暮らせるために，家族の適切なかかわりやケアとともに，地域住民も認知症について正しい知識と理解を深めることが大切です。

高齢者サロン

高齢者が健康で生きがいを持って過ごせるように，各地域の市民センターなどではいろいろな「サークル」や「高齢者サロン」などが開かれ，趣味の活動や教養を高める活動が盛んです。高齢者が積極的に外に出る機会にもなっています。

地域のボランティア活動に参加する高齢者も増えています。高齢者への支援だけでなく，乳幼児を持つ親への「子育て支援」や，小・中学校の「学校生活支援」なども行われています。高齢者自身も，自分の豊かな経験や特技を生かし，社会に役立つことが，大きな生きがいにつながっています。

名張市総合福祉センターふれあい

名張市総合福祉センターふれあいの施設内には，在宅高齢者の通所介護施設（デイサービス）や，高齢者の健康増進を目的とした「老人福祉センター」があります。老人福祉センターへは市内各地から「福祉バス」が運行されています。

また，施設の中に，在宅高齢者の福祉を中心に地域の福祉活動を支援する「名張市社会福祉協議会」があります。地域の高齢者サロンや配食ボランティア活動の支援，共同募金運動や在宅介護の相談援助・訪問看護など幅広い活動をしています。

福祉バス

市内の小中学校を「福祉協力校」に指定して，車いすの貸し出しなど，学校での福祉の学習がより効果的に行えるよう協力しています。

配食サービス【→P71】

3．障がい者福祉

名張市は，障がいのある人もない人も地域で安心して生活し，社会参加できる「人にやさしいまちづくり」をめざしています。その取り組みの一つが，建物や道路等の「ユニバーサルデザイン化」です。市内の駅などの公共施設や大型店では，出入り口の段差の解消のほか，「専用エレベーター」「障がい者用トイレ」「車いす使用者用駐車区画」などが設置されています。

「障がいがあっても地域で暮らしたい」「一人暮らしは不安だけど自立したい」という願いに応え，地域の中で共同生活をする「グループホーム」もあります。夜間等の日常生活の援助とともに，地域住民の理解と協力も大切です。

車いす使用者用駐車区画

障がいのある人が自立し，社会参加をしていくために，一人ひとりの能力や特性に応じて働ける場所が望まれます。障がいのある人を援助する専門の指導員を配置し，安心して働くことができる職場を作っている企業もあります。

福祉のおみせ

企業で働くことが困難な人のために「福祉的就労」（通所施設）の場も増えています。そこでは，協力企業から発注された作業や，パンづくりなどの自主製品の製造をしています。最近では，農業の分野でも新しい就労の場をめざしています。市ではこれらの運営を支援するため「とれたて名張交流館」などに「福祉のおみせ」を設置しています。

社会福祉法人　名張育成会

名張育成会は，「障がいのある人の生活を一貫してサポートする施設」として 1958（昭和33）年に開設され，以来 60 年以上にわたってその事業をニーズに応じて展開させています。美旗中村にある施設内には，障がいのある児童生徒や成人が入所する施設があり，市内の学校へ通学したり，パンづくりなど特性に応じて活動できる市内の通所施設へ通ったりしています。もちろん名張育成会が運営する通所施設にも，市内各地から通ってくる人がたくさんいます。

また，地域で共同生活をする「グループホーム」を 16 か所設置し，安心して生活できるよう支援しています。その他，自宅で暮らす人のために，入浴などの身体介護のほか，買い物や外出時の支援などにも取り組んでいます。職員は，「地域の中にはいろいろな人がいます。社会的に弱い立場の人も認めることができるのが地域の豊かさの証明です。」と話していました。だれもが人として大切にされ，住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける社会の実現をめざしています。

名張育成会の施設活動

農業と福祉【→P32】

4．子ども・子育て支援

名張市では，子育て世代が地域の中で支援を受けたり，求めたりできる「産み育てるにやさしいまちづくり」をめざしています。

チャイルドパートナー

名張版ネウボラ

名張版ネウボラとは，妊娠・出産・育児の切れ目のない相談・支援の場とその仕組みをいいます。全ての妊産婦・乳幼児の保護者に寄り添い，伴走型の予防的支援ができる環境を整えています。

妊娠した時から身近な相談支援を行う人材として，「まちの保健室」には「チャイルドパートナー」がいます。また，各地域の「主任児童委員」が，生後４か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し，地域の子育て支援のきっかけづくりをしています（「こんにちは赤ちゃん訪問」）。

それぞれの地域で，地域づくり組織やボランティアが，身近な場所で「子育て広場」や「サークル」を開き，世代間の交流や健康教育が活発に行われています。また，小学生対象の放課後児童クラブや登下校の見守りなども「地域ぐるみの子育て支援」の一つです。

厚生労働省の視察（かがやき）

こども支援センターかがやき・子どもセンター

桔梗が丘西にあるこども支援センターかがやきは，親と子がゆったり一日過ごせ，親同士のコミュニケーションの場にもなっています。スタッフが子育ての相談や地域の「子育て広場」へ出向くなど，さまざまな子育ての支援活動をしています。助産師による「安心育児・おっぱい教室」や，普段あまり子どもと触れ合えないお父さんのために，土曜子育て広場「サタパパ広場」も行われています。

百合が丘にある子どもセンターには，特別な支援が必要な子どものための「子ども発達支援センター」と，幅広く子どもの学びを支援する「教育センター」があります。途切れのない発達支援，学びや育ちの支援を行っています。

子どもセンター

・自分たちの身近なところで，地域づくり組織やボランティアの人たちが取り組んでいる「高齢者」「障がい者」「子育て」を支える活動を調べてみましょう。
・「やさしいまちづくり」のために，私たちにもできることはないか考えてみましょう。